



## 豊岡市非認知能力向上事業

教育委員会こども教育課

1

### 非認知能力向上事業の概要

#### 演劇ワークショップによる非認知能力の向上 (小学校低学年、モデル校で実施)

向上を目指す3つの力（非認知能力）

- ①やり抜く力    ②自制心    ③協働性

##### 演劇ワークショップ

- プログラムの開発（平田オリザ氏監修）
- プロのアーティストによるワークショップの実施



##### 非認知能力の評価

- 青山学院大学研究チームによる測定方法の研究
- ワークショップの効果測定

子どもたちに「生きる力」を育む

2

## 効果測定の研究

青山学院大学への受託研究

### 量的研究法

- 質問紙法(児童アンケート)
- ・ワークショップの事前、事後に実施し、比較分析



### 質的研究法

- 担任教諭への聞き取り
- ファシリテーターへの聞き取り
- 参加児童の自由題作文の分析

※量的研究法の妥当性を補強



3

## 演劇ワークショップ プログラム

劇作家 平田オリザ氏監修

《演劇的な表現活動を通して》

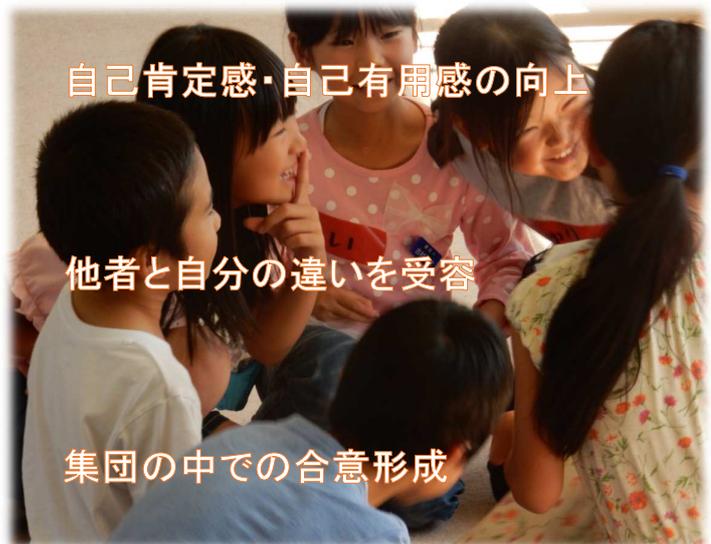
自分の考えや気持ちを表出し、  
受容される体験



異なる考え方・価値観の認識



自分と他者との違いの  
すり合わせ



4

演劇ワークショップは非認知能力の中の3つの要素「協働性」「自制心」「自己効力感(=やり抜く力)」にプラスの変容を与える可能性がある。  
 (検証会議 青山学院大学 苅宿俊文教授)

【子どもの変容】

(3回目演劇WS前後の比較)

やり抜く力 +0.32P ↑  
 自制心 +0.23P ↑  
 協働性 +0.15P ↑

(授業中以外の様子)

やり抜く力 +0.56P ↑  
 自制心 +0.18P ↑  
 協働性 +0.09P ↑

自分のことが好き +1.07P ↑  
 (やり抜く力=自己効力感)

受け入れて  
もらえた

折り合いを  
つけられた

話し合っ  
て解決できた

## 演劇ワークショップでの子どものすがた

受け入れられる安心感

表現することへの喜び

客席側の成長・共感的態度

チーム表現

子どもの事実

表現への意欲の高まり

失敗を乗り越える

内省

チームでの課題解決(合意形成)

ファシリテーターの見え方